MySQL 5.1.44 リリースノート （日本語翻訳）

InnoDB Plugin に関する注意事項:

- 今回のリリースには InnoDB Plugin 1.0.6 が含まれている。本バージョンは、Release Candidate（RC）の品質であるとみなされている。

  今回のリリースでは、InnoDB Plugin は、RHEL3、RHEL4、SuSE 9（x86、x86_64、ia64）、および Linux RPM 汎用パッケージを除き、ソースおよびバイナリディストリビューションに含まれている。また、FreeBSD 6 と HP-UX、および ia64 全般の Linux では動作しない。

機能の追加と変更:

レプリケーション: サーバオプション--binlog-direct-non-transactional-updates が導入された。このオプションを使用すると、非トランザクショナルエンジンを使用するテーブルに対してステートメントベースのロギング形式を使用する更新が、トランザクションキャッシュではなく直接バイナリログに書き込まれる。

このオプションを使用する前に、トランザクショナルテーブルと非トランザクショナルテーブルの間に依存関係が存在しないことを確認する。InnoDB テーブルからの選択と MyISAM テーブルへの挿入を両方実行するステートメントは、このような依存関係の一例である。詳細については、Section 16.1.3.4, “Binary Log Options and Variables”を参照（Bug#46364）。

Bug#28976、Bug#40116 も参照。

修正されたバグ:

パフォーマンス: INFORMATION_SCHEMA の名前とデータベース名を比較するメソッドは最適化されていなかったため、改善が行われた。あらかじめデータベース名の長さがわかっている場合には、まず長さチェックが実行され、長さが等しくない場合には内容比較がスキップされる（Bug#49501）。

- **パフォーマンス:** MD5()と SHA1()の関数で、文字列が短い場合に過剰なオーバーヘッドが発生していた（Bug#49491）。

Copyright © 2012 Nomura Research Institute, Ltd. All rights reserved

- **パーティショニング**: InnoDB テーブルに対する ALTER TABLE ... REORGANIZE PARTITION ステートメントが、ロックを待機中の innodb_lock_wait_timeout の期限切れが原因で失敗した場合、InnoDB は作成したテンポラリファイルやテンポラリテーブルをクリーンアップしなかった。このタイムアウト後に ALTER TABLE ステートメントを再発行しようとすると、ストレージエンジンのエラーが発生するか、サーバがクラッシュする可能性があった（Bug#47343）。
- **レプリケーション:** テーブルに多数のカラムを挿入すると、バイナリログが破損する可能性があった（Bug#50018）。

  Bug#42749 も参照。

- **レプリケーション:** 行ベースのレプリケーションを使用する場合、MyISAM テーブルの BIT または CHAR カラムを NULL に設定したうえでテーブルから削除しようとすると、Can't find record in *table* というエラーでスレーブが失敗した（Bug#49481、Bug#49482）。
- **レプリケーション:** 行ベースモードでロギングする場合、DDL ステートメントは実際にステートメントとしてログに記録されるが、テンポラリテーブルに影響し DDL ステートメントに続くステートメントはバイナリログ形式を ROW にリセットできないため、ステートメントベース形式でログに記録されていた。現在は、DDL ステートメントがバイナリログに書き込まれた後で binlog_format の状態が復元される（Bug#49132）。
- **レプリケーション:** 行ベースのロギングを使用する場合、t がすでにテンポラリテーブルとして存在する場合には、ステートメント CREATE TABLE t IF NOT EXIST ... SELECT が CREATE TEMPORARY TABLE t IF NOT EXIST ... SELECT としてログに記録された。これは、同じ名前でテンポラリテーブルが存在した場合には、テンポラリテーブルがオープンされて SELECT の結果がそのテーブルに挿入されたという事実が原因だった。

  現在このステートメントを実行すると、同じ名前のテンポラリテーブルがすでに存在する場合であっても、t がベーステーブルとして作成され、SELECT の結果はそのベーステーブルに挿入されるため、ステートメントは正しくログに記録される（Bug#47418）。

  Bug#47442 も参照。

- **レプリケーション:** バイナリログにおけるイベント表現のサイズ変更が原因で、MySQL 4.1 のマスタから MySQL 5.0.60 以降を実行しているスレーブに複製すると、START SLAVE UNTIL ステートメントが正しく機能せず、ログの誤った位置で停止した。現在は、マスタが以前のバージョンのバイナリログ形式を使用していることをスレーブが検出し、イベントサイズの差異を補正するため、スレーブは正しい位置で停止する（Bug#47142）。

Copyright © 2012 Nomura Research Institute, Ltd. All rights reserved

- テストスイートでの SSL 証明書が期限切れになるところだった。証明書は更新され、有効期限は 2015 年まで延長された（Bug#50642）。
- Solaris 8 以前には printstack 関数が存在しないため、コンパイル失敗の原因となった（Bug#50409）。
- 適切な権限のないユーザが INFORMATION_SCHEMA.TABLES のテーブルを表示できる可能性があった（Bug#50276）。
- 結合構造のデバッグ出力が文字化けしていた（Bug#50271）。
- filesort のソートメソッドを CHAR(0)カラムに適用すると、サーバがクラッシュする可能性があった（Bug#49897）。
- sql_buffer_result は SELECT 以外のステートメントに対しても効果があり、その点がドキュメントと異なっていた（Bug#49552）。
- テーブルメタデータから計算可能な集約値のみを返すため、サブクエリの評価は不要な場合がある。これがエンクロージング型サブクエリによって処理されないことがあり、サーバがクラッシュした（Bug#49512）。
- 全文検索と行の式が混在すると、クラッシュが発生した（Bug#49445）。
- 1023 件のトランザクションがアクティブなテーブルを作成または削除すると、表明違反が発生した（Bug#49238）。
- 現在、*mysql-test-run.pl* は環境変数 MTR_TESTCASE_TIMEOUT、MTR_SUITE_TIMEOUT、MTR_SHUTDOWN_TIMEOUT、および MTR_START_TIMEOUT を認識する。これらの環境変数が設定されている場合、その値を使用して--testcase-timeout、--suite-timeout、--shutdown-timeout、および --start-timeout のオプションがそれぞれ設定される（Bug#49210）。
- innodb_force_recovery が 4 以上に設定されている場合、自動増分のカラムを含む InnoDB テーブルをオープンするとサーバがクラッシュする可能性があった。バージョン 5.1.31 以降の MySQL が影響を受けた（Bug#46193）。
- ストレージエンジンがエラーを報告した後でオプティマイザがクエリの実行を続行する可能性があり、サーバがクラッシュする原因となった（Bug#46175）。

※本翻訳は、理解のための便宜的な訳文として、オラクルが著作権等を保有する英語原文を NRI の責任において翻訳したものであり、変更情報の正本は英語文です。また、翻訳に誤訳等があったとしても、オラクルには一切の責任はありません。

Copyright © 2012 Nomura Research Institute, Ltd. All rights reserved